

医心 伝心

県内の特定健診と 糖尿病対策について

富山県医師会理事 寶田 茂

県民の健康寿命延伸を図るためには、生活習慣病の発症予防・早期発見・早期治療が重要となります。そこで特定健診の役割は大きく、対象県民の多くの方に特定健診を受診して頂く必要があります。2020年度の富山県における特定健診実施率は41.7%で全国平均33.7%を上回っておりますが、コロナ禍の影響もあり市町村国保が掲げている目標値60%を超えている市町村はございませんでした。今後も会員の先生方には特定健診の受診啓発をお願いしたいと思います。

特定健診の健診項目は都道府県により大きな違いがあります。特に後期高齢者を対象とした特定健診では、東海北陸ブロックで三重県が最も充実しており、基本項目以外に貧血、心電図、眼底、アルブミン値、尿酸値、腎機能（血清クレアチニン・尿素窒素）が検査対象になっております。富山県の健診項目は最も少なく、基本項目に腎機能検査（血清クレアチニン）が追加できるだけです。特定健診は別名メタボ健診とも呼ばれているように、生活習慣病に関わる項目のみが対象となっており、行政の見解は貧血とメタボとの関係性がないため、後期高齢者に対して貧血検査を追加健診に組み込むことはできないとのことでした。しかし、高齢になればなるほど貧血・慢性腎臓病・心疾患の発症頻度が高くなると報告されており、慢性腎臓病の合併症のうち注意を要するのが腎性貧血であり、腎性貧血を発症するとさらに腎機能低下が悪化し、ますます貧血が進むという悪循環に陥ります。また貧血検査は消化管の癌の早期発見につながることもあり、高齢者にとって非常に有

益な検査であります。そのため、2023年度より後期高齢者特定健診において医師が必要と判断した場合に限り、貧血検査と心電図検査が追加できることになりましたのでご案内致します。

さて、糖尿病対策を積極的に取り組むため、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、日本医師会の三団体は、平成17年に糖尿病対策推進会議を設立し、全国で糖尿病対策の強化と啓発活動が行われてきました。富山県では平成28年度にかかりつけ医の糖尿病診療の標準化を目指し、本誌に糖尿病ワンポイントレクチャーを連載しました。その後7年が経過し、新たな糖尿病治療薬や持続皮下血糖モニタリング「リブレ」が発売され、ここ数年の間に糖尿病診療の変革が起こっているものと思われます。そこで会員の先生方にお役立て頂きたく、富山県糖尿病対策推進会議のメンバーの先生方に「糖尿病ワンポイントアドバイス」というタイトルで本誌に執筆して頂くことになりました。2023年4月が初稿、2024年3月まで12回にわたる連載を予定しております。

最後に、昨年11月に発刊されました「2022年版糖尿病治療のエッセンス」についてですが、この書は日本糖尿病対策推進会議で編集され、糖尿病治療ガイド（糖尿病学会編）を参考に糖尿病治療のポイントをとりまとめて作成されたものであります。糖尿病治療のエッセンスを活用することにより最新の知見について理解を深めることができ、また糖尿病の日常診療に大変役立つものと思われますので、会員の先生方にも御一読していただき、日常診療に御活用していただければと存じます。